



2025年5月13日

各 位

会社名： フクビ化学工業株式会社  
代表者名： 代表取締役社長 森 克則  
(コード番号：7871 東証スタンダード・名証メイン)  
問合せ先： 広報・IR推進室長 柏 直樹  
(TEL：0776-38-8415)

### フクビグループ SDGs の取り組みに関するお知らせ

当社グループでは2020年11月にSDGs宣言を行い、2021年5月に具体的数値目標を掲げて、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくことといたしました。このたび2024年度までの進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたします。

詳細については、別紙をご参照ください。

以上

# フクビグループ SDGsの取り組みに関するお知らせ

当社グループでは2020年11月にSDGs宣言を行い、2021年5月に具体的数値目標を掲げて、今後定期的に進捗状況をお知らせしていくことといたしました。このたび2024年度までの進捗状況がまとまりましたので、お知らせいたします。



## フクビグループSDGs 4つの基本姿勢・マテリアリティ・KGI・取り組み

### 基本姿勢 1

技術と提案力で  
安心・安全・快適な  
暮らしを創造する

マテリアリティ:安心・安全・快適な暮らしの提供  
KGI:安心・安全・快適を実現する製品開発の推進



居住空間、公共空間、気候変動、地球環境、高齢者、子どもの観点から安心・安全な製品を開発し、これらの拡販を通じ社会課題を解決する製品を増やし、住み続けられるまちづくりに貢献する。 新商品累計26件

- 清潔で安心な室内環境を生み出す製品:シズクリア不燃

### 基本姿勢 2

環境と共に生きる  
社会を創造する

マテリアリティ:技術革新  
KGI:資源循環の推進



低炭素社会と資源循環型社会の実現に貢献する。

- 資源循環の構築:環境ブランド「Fukuvalue」2030年度累計30アイテムを目指し、新規1アイテム(OAフロアLP3000)、累計9アイテムを登録。
- 産業廃棄物の削減推進
- CO2排出量の削減推進

### 基本姿勢 3

スマートワークで  
「一人ひとり」の  
価値を創造する

マテリアリティ:働きがいのある仕事の提供  
KGI:デジタルの活用推進 従業員エンゲージメントの向上



従業員エンゲージメントを高め、多様性と働きがいのある環境を実現させる。

- 健康経営優良法人2025(大規模法人部門)認定
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進:採用女性比率39.4%
- 人材育成・活性化:女性管理職6.8%
- 柔軟な働き方の推進:在宅勤務利用率19%、男性育休取得率31%

### 基本姿勢 4

パートナーシップで  
持続可能な  
地域社会を創造する

マテリアリティ:パートナーシップ・アライアンス  
KGI:パートナーシップによる価値の創出



社外とのパートナーシップを高め、共通のテーマ・目標について協働することにより、自社のみでは達成しえない社会課題の解決に貢献する。

- パートナーシップ 新規13件
- 地域資源循環テーマ推進

## 2030年度目標 (KPI)

### CO2排出量の削減

2019年度比 30% 削減※1  
Scope1&2

2023年度 ▲28.3%※2

2024年度 ▲29.7%

### 産業廃棄物の削減

2019年度比 50% 削減※1

2023年度 ▲35.3%

2024年度 ▲53.9%

ダイバーシティ &  
インクルージョンの推進  
女性管理職比率 20%※1  
(管理職に占める女性の割合)

2023年度 4.2%

2024年度 6.8%

※1 目標(KPI)を据え置いておりますが、技術革新を進める中で見直しを検討してまいります。

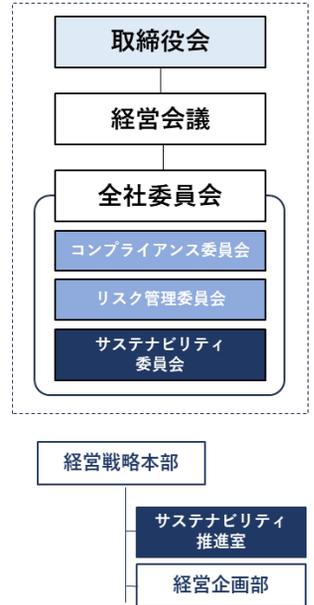
※2 一部見直しにより29%から28.3%に修正。今年度よりCO2および産業廃棄物の排出削減率を小数点表記。

## サステナビリティ・ESGの推進

当社グループでは、2023年4月にサステナビリティ委員会を経営会議の下部組織として設置し、その事務局、運営機能を主とするサステナビリティ推進室を立ち上げ、サステナビリティ・ESG推進体制の強化を図っています。サステナビリティ委員会は持続可能な企業であり続けるため、ESGに関する情報の収集と分析、存在価値の向上に向けた方針、戦略の企画・立案・提言を行います。本委員会は2回開催され、第1回は「CO2排出量2019年度比30%削減に向けて」、第2回は「ダイバーシティインクルージョンの推進 2030年度女性管理職比率20%以上達成に向けた取り組みと課題」を主題として現状分析とその対応について検討、それぞれ事業部単位の実行計画へ落とし込みを行いました。これらの計画を2025年度に実行に移し、委員会他にて進捗を確認していきます。

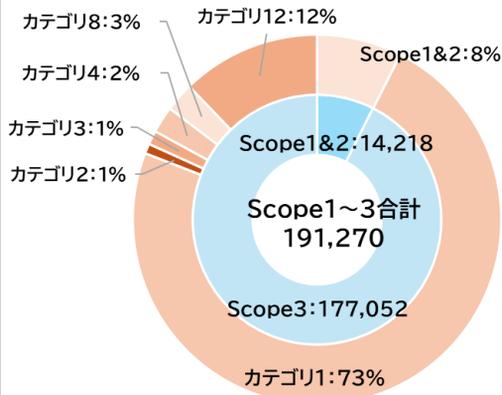
さらにサプライチェーンのCO2排出量を把握し、削減目標を策定、実行していくために2023年度のScope3を算定し公開いたしました。

またサステナビリティ推進室では、これらサステナビリティに関する進捗状況の情報開示を行うとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションの強化など当グループのサステナビリティ活動の支援や資源循環の取り組みに関する企画を立案し、実行していきます。



## Scope3 算定結果

(2023 年度 Scope3 フクビ化学単体)



単位:t-CO2

Scope3総排出量		177,052
カテゴリ1	購入した製品・サービス	139,606
カテゴリ2	資本財	1,635
カテゴリ3	Scope1、2に含まれない燃料及びエネルギー活動	2,317
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	4,441
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	575
カテゴリ6	出張	110
カテゴリ7	雇用者の通勤	299
カテゴリ8	リース資産(上流)	4,837
カテゴリ9	輸送、配送(下流)	-
カテゴリ10	販売した製品の加工	-
カテゴリ11	販売した製品の使用	-
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	23,209
カテゴリ13	リース資産(下流)	23
カテゴリ14	フランチャイズ	-
カテゴリ15	投資	-

※排出原単位は、【IDEAv3.4】と【サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベースv3.4】を利用しました。

※カテゴリ4はトンキロ法(輸送重量×輸送距離×排出原単位)で算定しました。

※カテゴリ9、10、11、14、15は以下の理由により、算定対象外としました。

カテゴリ9：自社が荷主とならない全商品の配送の把握は困難であり、算定対象外としています。自社が荷主となり配送した際の排出量は、カテゴリ4に含まれます。

カテゴリ10：加工を行う商品が多く、加工方法が多岐にわたり算定が困難なため算定対象外としています。

カテゴリ11：算定対象外としています。

カテゴリ14・15：該当する活動がなく算定対象外としています。

※Scope3はフクビ化学単体での算定結果のため、Scope1&2の数値もフクビ化学単体での算定結果としています。

### 92期（2025年度）強化方針

- 資源循環推進：地域型資源循環の推進
- TCFD、SBTへの対応を見据えたGHG削減目標の見直しと推進